

氏名	大 村 守 人
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 4 2 6 号
学位授与の日付	昭和45年6月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)
学位論文題目	リンパ性組織に出現する細胞質小体 (cytoplasmic bodies) に関する研究
論文審査委員	教授 大 内 弘 教授 小 川 勝 士 新見嘉兵衛

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

本研究は、リンパ性組織に出現する無核の細胞質小体を、いろいろのリンパ性組織について比較観察するとともに、その増殖や起源について検討したものである。

細胞質小体は、中枢性リンパ組織とみなされる胸腺にはすくなく、末梢性リンパ組織とみなされるリンパ節や脾には多い。ただし、中枢性リンパ組織といわれているウサギの虫垂と円小囊およびニワトリのFabricius 囊にはかなり多い。その大多数は、血小板とほぼ同じ大きさで、形もよく似ているが、小リンパ球大の円形のものもすくなくない。このものはRNAを含み、methyl green - pyronin 染色で赤く染まるが、DNAを含まない。このような小体が多数出現する場合には、リンパ球の細胞質芽出 (cytoplasmic budding) がしばしば認められる。

また、細胞質小体は細胞質と同様に³H-uridine でラベルされる。このような所見は、細胞質小体がリンパ球の細胞質芽出によって形成されることを強く支持する。なお、細胞質小体はリンパ節や脾における免疫細胞増殖に伴って著しく増加するので、細胞質小体の形成は免疫現象と関係のあることが推定される。

(昭和45年4月、岡山医学会雑誌、第82巻第3、4号に掲載予定)

論文審査の結果の要旨

本研究は、従来研究の少ないリンパ性組織内の無核細胞質小体について種々の角度から研究したものであるが、この小体の形成がリンパ球の細胞質芽出によることおよび免疫現象と深い関係があることなどを示す重要な諸知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって本研究者は、医学博士の学位を得る資格があると認める。